

# 八戸工業高等専門学校

# 同窓会会報

八戸高専同窓会 第44号

## 同窓会会報 44号の目次

新保健室(ゼミ棟1階) . . . . .	1	学内ニュース . . . . .	6
会長あいさつ . . . . .	2	コースからのメッセージ . . . . .	14
校長あいさつ . . . . .	3	平成30年度 事務局短信 . . . . .	16
支部会報告 . . . . .	4		
私のお仕事紹介します . . . . .	5		

## 新保健室



学生食堂2階の保健室がゼミ棟1階に移動しました。  
処置室(左写真)、談話室スペース(右写真)

# 会長あいさつ



## 【同窓会会長 舘山 勝 (Z6)】

第25回総会ならびに50周年記念式典が無事終了しました。ご参加頂いた皆様には深く御礼申し上げます。この総会では、50周年記念事業として取り組んだ会則の改訂や愛称「北辰会」をお認め頂きました。また、名簿のCD化やHPの全面改訂もなされ、次の50年に向けて、いよいよ本格運用が始まります。

以下にこれらの概要と、今後の同窓会活動についてご報告させていただきます。

### 会則改訂の骨子

9月22日に開催された総会において、会則が改訂されました。要点は以下の通りです。

- ・同窓会愛称「北辰会」の記載の追記（第1条）
- ・途中退学者の準会員の扱いの明記（第5条）
- ・会費改訂と永久会費乗換え額の設定（第6条）
- ・事務局長、事務局の選任の追記（第7、8条）
- ・総会、評議会、理事会の審議・承認事項の実態に合わせた変更（第14、16、18、19、20条）
- ・個人情報保護方針の追記（第27条）
- ・集会助成金の内規集約（内規の改訂）

これにより、これまでの同窓会活動の実体に即した会則に改訂されたものと考えております。なお、詳しくはHPにてご確認ください。

### HPリニューアル

会員サービスの向上、事務作業の効率化を目指して、HP (<http://www.hachinohe-ct-dsk.jp/>) の全面

改訂を行いました。昨年9月から試行を始め、これから本格運用となります。たくさんの皆さまにご覧頂ければと思っております。

旧HPからの追加機能は以下の通りです。

- ・会費、名簿等のクレジットカード支払機能
- ・総会資料、集会報告などのアップロード機能
- ・会員から同窓会へのメッセージ登録機能
- ・各種届出書類の書式ダウンロード機能

新HPの活用により、通信費削減、事務局業務の効率化、支払いの簡便化、リアルタイムな情報発信が図れると考えます。また、今後は同窓会HPへの協賛企業のバナー掲示等について取り組む予定です。

### 会員名簿のCD化

会員名簿のCD化を図りました。個人情報保護に留意しながらも、検索機能の強化など更なる利便性の向上に取り組む予定です。

なお、名簿データベースの再構築などの経費増を賄うため、当面は名簿価格を据え置いておりますが、一連の改修が終わり次第、大幅ディスカウント、永久会員への無償配布などが可能となると考えております。

同窓会も50周年を迎え、20代～70代までバランスの良い会員構成となってまいりました。これを機に執行部にも各世代の方々に参画頂く必要があることから、今年の榎本潮(C27)様に続き、来年度からは瀧本一男(E18)様に副会長に就任頂くことになりました。また、昨年、学校に就任されました圓山重直校長におかれましては、学生の海外研修支援や同窓生のUターン支援などに取り組もうとされており、同窓会としても取り組むべき活動であることから、学校と連携し積極的に支援したいと考えております。

これらの事業を進める上での寄付についてもHPから受け付けておりますので、ご支援の程、何卒、よろしくお願いいたします。

# 校長あいさつ

第9代八戸工業高等専門学校長に就任して、2年目になりました。

昨年度は、本校の学生諸君や教職員が目覚ましい活躍を見せてくれました。また、本校で実施している自主探究は、国際的に展開しており、それらで多くを学んだ学生が、国内外の学会等で受賞しています。秋季青森県高等学校野球大会では、並みいる強豪校を打ち破り準決勝に進み、本校が春の選抜高校野球大会の二十一世紀枠青森県代表に選出されました。本校の教職員学生の活躍は、新聞などのメディアに多く取り上げられました。昨年度その総数は77件におよび、特に学生諸君の活躍は、地域の皆様に高く評価されております。本年度は、タイのチュラポーン王女サイエンスハイスクール学生の受け入れ校に採択されました。それを契機に、留学生と日本人学生と一緒に生活する混住寮に北辰寮の一部を改修します。来年度からは、八戸に居ながらにして国際感覚を身につけることができる国際寮の利用が可能となります。また、正門横にある記念会館も内部を改修して、2クラスの合同授業が可能な講義室となります。皆様のご支援とご理解を頂きながら、本校の勉学・研究環境が改善していることは、喜ばしい限りです。

昨年のご挨拶では、関東地区などに就職している本校卒業生が、郷里に戻って再就職する場合や、定年やご家族の事情で青森県・岩手県に再就職の道を模索している本校卒業生がいる一方で、高専の卒業生で実績のある方を迎えたいと考えている地元企業が多いことを述べました。このニーズとデマンドをふまえて、本校卒業生と地元優良企業とのマッチングシステムを構築します。つまり、地元に戻る卒業生が、より良い環境で再就職できるお手伝いをするための組織「一般財団法人は



【特別会員・学校長 圓山 重直】  
(まるやま しげなお)

ちのへ科学技術研究会(仮称)」の設立準備をしております。この財団は、卒業生の就職支援だけでなく、本校の学生が海外で学ぶときの助成や共同研究支援も行う予定です。この財団設立のためには、卒業生の皆様の協力が必要ですので、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成29年度の本校の人事異動ですが、太田徹教授、鳴海哲雄教授、館野安夫教授が平成30年3月31日をもって定年退職となりました。先生方の本校への永年のご尽力に敬意を表するとともに、心からの感謝を申し上げます。

また、平成29年12月1日に機械システムデザインコース古川琢磨助教、平成30年1月1日に環境都市・建築デザインコース金善旭准教授、平成30年4月1日に総合科学教育科横田実世教授、環境都市・建築デザインコース今野大輔助教が赴任されました。今後のご活躍を祈念致しております。同窓会の皆様には、今後とも本校発展のために一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 支部会報告

## 関東支部より

### 【八戸高専同窓会関東支部 戸田 和孝】

同窓生各位には益々ご健勝のことと存じ上げます。さて関東支部では同窓会活動としてサロン会を開催しておりますが、直近の活動内容について以下のようにご報告いたします。

#### 第37回サロン会 2018/2/3 開催

東京・東日本橋の貸会議室にてE科7回生の山田清秋さんに「電気技術者が40年間携わった医療機器の製造・保守・治療及び薬事申請の仕事」というテーマで講演していただきました。

山田さんは八戸高専卒業後に横河ヒューレット・パカード株式会社に入社し、27年間勤められ、測定器・医療機器の製造・保守サービス、品質マネジメントシステム構築等を経験されました。その後、フィリップスメディカルシステム株式会社に移り、さらにイスラエルの医療機器企業の日本法人の設立のために転職し、立上げから事業拡張までとてご尽力され、医療機器の製造販売業許可・更新及び修理サポート等の仕事でご活躍されました。その後、買収先企業を経て2015年10月に退職され、現在は物流会社にて医療機器専門のアドバイザーをされておられます。電気工学とは異なる医療分野での知識の取得や日本語の通じない海外のお客様とのコミュニケーションでご苦勞されたことや、イスラエルはじめ多くの国々を仕事で飛び回った際に異なる習慣に驚いたことも楽しくお話して頂きました。また転職の際には、好条件を提示された会社よりもご自分の好きな仕事ができる会社を悩みながらも選択した経緯もお話して頂きました。これは多くの同窓生に共通する悩みでも参考になりました。さらに人体の十二指腸や小腸の検査に関して、映像を録画できる小さなカプセルを飲み込んで排泄後に回収して患部の状況を正確に把握できる技術のご説明の際、現物の小さなカプセルを見せてくれたり、録画映像の一部も用いて今回だけ特別にご説明して頂き、参加者全員が息を飲みました。小さなカプセルは体内で回転するので、患部の状況を正確に把握するために正方向に進む映像としてのみ写せる補正機能も有しているとのこと、これは東南アジアの国が医療機関に安く販売しているコピー商品にはとてもまねのできない技術であることもご説明して頂きました。

関東支部では今後もサロン会を技術的な観点でのお話を中心として開催予定です。以下のメールアドレスにご連絡いただければ随時、関東支部の活動情况等をメールにてご連絡いたします。

同窓生の皆様のご理解とご協力に感謝しております。

八戸高専同窓会関東支部 戸田和孝 ([tod.kaz@r2.dion.ne.jp](mailto:tod.kaz@r2.dion.ne.jp))



第37回サロン会の様子

# 私のお仕事紹介します

## 「機械と接し、化学と接し、人と接し」

株式会社クレオ  
名古屋事業部リーダー  
M44 松尾 礼

私が勤めている株式会社クレオは製造工場や物流センター向けに「洗浄」を販売する会社です。要は洗浄機械と洗浄剤の販売メーカーなのですが、業務スタイルは現場主義で、そこで培われた対応力と提案力が売りです。

クレオは創業以来、新卒採用は高専にのみ求人を出す方針で、高専生の能力を高く評価している会社です。全員はじめは保守修理部門へ配属され、メンテナンスを通して洗浄機の構造、納入先の状況を学びます。その後は各人に合った部署へ配属され、現在 11 名の八戸高専出身者が様々なシーンで活躍しています。

私自身は平成 23 年に入社し、現在は名古屋事業部で総合的衛性提案を行うサニテーション部門の責任者を務めております。洗浄機をはじめとする衛性提案には機械・化学両面の知識を駆使し、それを相手に伝える営業力が必要となります。時にはお客様の目の前で実践をし、従業員様へ洗浄の指導・講習をしたりもします。

クレオは少数精鋭で、一人が社内や取引先へ与える影響は大きいです。失敗の苦味も成功の喜びもダイレクトに感じる、やりがいのある仕事を味わうことができます。



写真：食品工業向け展示会セミナーにて

## 「銅線と鉄芯にロマンを」

多摩川精機(株)  
モーションコントロール研究所技術課  
E39 横浜 智明

私は多摩川精機のモーションコントロール研究所に平成 20 年から在籍し、製品の研究・開発を行っています。モーションコントロール研究所を含む八戸地区の事業所には、八戸高専出身者が 20 名以上在籍しており、“高専の雰囲気”を感じる機会が多く、入社 10 年を過ぎた現在でもホッとすることがあります。

さて、多摩川精機は今年創立 80 周年を迎えた歴史の長い会社です。長い歴史の中でジャイロやレゾルバと呼ばれるセンサ、サーボモータをはじめとして、近年では化学分野の製品開発も行い、幅広い分野に事業を広げています。

そんな、多品種、多品目の製品群の中で、私は様々な製品を担当し経験を積んで来ましたが、現在はブラシレスレゾルバと呼ばれる、銅線と鉄芯で構成され、電磁気学のみに基づき構成される角度センサの設計を行っています。

角度センサの性能として精度が主な指標となりますが、どのような形状にすれば良いか、銅線はどのくらいの量巻けば良いか、奇跡の組合せを求め日々研究をしています。ただ、電気磁気学に基づくセンサのため、シミュレーション等も実施可能なので、“奇跡”というのは語弊があるかもしれませんが、単純な組合せだからこそ大きなロマンを感じつつ研究を進められる、今日この頃です。



# 学内ニュース

## 定年退職教員のご挨拶

【総合科学教育科 教授 太田徹先生】

～なぜ、私は教科書を捨てたのか～

退職を機会に、私の国語がどうして教科書から離れることになったのかをみなさんに述べるチャンスを与えられ、うれしくおもいました。



私が高専教員になった1984年は、国語は卒業167単位のうちの10単位分でした。当時、高校3年間で普通クラスは17単位行われるのが普通だったので、高専はたいへん少ない時間数でした。文系一般教養といわれるものを削り、その分の時間を専門教育に当てていくのは、工業系の技術教育をしているところだから仕方がないと考えられていました。私も、授業では国語、放課後は専門の哲学研究と、二つの道を分けました。

1990年代の初頭、コンピュータが入ってきました。私はコンピュータに夢中になりました。哲学には、ある単語がどのように使用されているかをいろいろな箇所テキストを調べることが大事な基礎仕事だったのですが、当時はまだアリストテレスやカントのような大哲学者については辞書があったのですがそれ以外にはありませんでした。そしてそれらの挙げる単語もまた编者により偏りがあり不十分でした。ところが、コンピュータの世界では元の文章さえ電子化されていれば、それをやすやすと単語辞

書（インデックス）を作ってくれるのです。私は、これを多数の研究者が電話回線を使ってネットワークをつくり各研究者がつくる原語辞典を統合し、それをネットワーク上で参照できるシステムにできるようにしたいと思いました。3年間の科研費がとおり、実際に2年目にApple社の機械を使いプログラムはできたのですが、運用実験するとき私にとって決定的な問題が起きました。電話の回線部分がアンテナとなりときおり空中を飛び交う電波をかってに拾い、それを交信中の通信に混ぜ込むのです。私の文系的な頭ではこれを完全に乗り切ることはできませんでした。そのころ、よちよち歩きだったインターネットは音声交換までできるようになりさらには画像も視野に入れ始めていました。結局、画面から画面へとつぎつぎに切りかえるWindowsの普及によって私のアイデアは陳腐なものになってしまいました。

しかしこれには副産物がありました。コンピュータの言語知識は、3年のコンピュータ研究中に私の文章上の習慣に位置づいていたのです。私は、電子データだったら、もとの文章をさほど手を加えなくともその配置を入れ替えることにより、何がテーマなのか、それを表すため元の文章に何が抜けていたのか、また、どの部分がテーマとは異質な部分であるか、などをはっきりさせることができるテクニックをもつようになっていました。また、当時、視聴覚機器の更新をしなくてはという学校の要望もありApple社のMacintoshを50台そろえたコンピュータ・ネットワーク室もできて、私は文章の書き方の個別指導に入っていました。それは1995年のあたりだったと思います。

このころコンピュータ室の私の授業は教科書

がありませんでした。学生は、私の与えたテーマにそって文章を書き、40数人分のできつつある文章を私は離れたホストコンピュータから見ている必要があれば遠隔操作で個別コンピュータに入り込み書くポイントを指示したりしました。内容も、文章だけのものから、文章と画像、また画像から文章へ、というように広がっていきました。しかし、私にとってこれは国語の作文の時間であり、それが終われば教科書に戻るとパターンに変化はなかったのです。

2000年ごろに国語と哲学の関係に変化がありました。哲学と国語とは別のものだと思っていたのに、両者が共通のところを持っていたということがわかったのです。そのことを明らかにした私の論文を引用します。

～伝統的レトリックの文の4つの基本型は、アリストテレスの説明概念に重なっている。記述は、説明のための材料を収集（意識化）する作業である。叙事と説明は、集められた材料を分類し、全体的統一の下で順序だてて一連化することである。これらの作業は、実は、すべて何かの目的があって始まる。しかし目的（テーマ）から直接的に文が生み出されるのではない。何に託すことがもっともよくテーマを表現するのか、そのアイデアがあってはじめて、具体的に情報を収集し組み立てることが可能となる。すなわち、記述、叙事、説明は、アリストテレスが説明の4要素として述べたことを充足することである。この作業を行いながら、文の作者は、話に矛盾はないか、話しの素材は適切に選ばれているか、そもそも初のアイデアはテーマを語るのに適切だったのか、たえず反省し評価しときには全く再構成し、文を練り上げていく。論証文は、こうした反省と評価の作業を建材化させた文である。～

太田徹：国際学習到達度調査（PISA）に対応できる国語教育のあり方

私のコンピュータを使った文の訓練が行きつこうとしていた記述・叙事・説明・論証とう4つの基本型は、アリストテレスの4原因説と同じことを述べているのです。

私は文章論と哲学が同じことを言っている理由が初わかりませんでした。が、つぎに私自身の不勉強を恥じました。2千年間のヨーロッパ人の努力を恐ろしくも感じました。つまり、文章論も哲学も、同じく出発点はアリストテレスから出ていると考えました。調べたら、欧米の「伝統的レトリック」とは私が考えたとおりのものでした。そして驚くべきことに、レトリックの考え方がヨーロッパ人の日々の生活の隅々まで広がっているのです。

日本の国語教育と言ってもせいぜい150年です。伝統を大切にしつつも、総体としてはまだ始まったばかりの言語教育です。私は、日本固有の教育を一度脇に寄せ、言語にとってより普遍的なものから素材を選ぼうと考えました。つまり、国語教科書で教えることをやめたのです。いま日本の教育界では、国語教育が欧米の言語教育の荒波をかぶっている、と言われていています。しかし、教育の変化ということに目を奪われるより、何を基本として身につけないといけないかという点で見ると、やっとなら日本語教育がはじまったところだと考えるべきなのではないでしょうか。

## 【総合科学教育科 教授 鳴海哲雄先生】

### ～28年間を振り返って～

平成2年（穴山校長）に赴任して28年間、この3月（圓山校長）で定年退職となりました。高校の教員として仕事をしていたところ高専への転職の話があり、「津軽」へ帰ることを計画していたので悩みました。1年目はM2のクラス担任でした。翌年M1、そしてM2、E1と連続で担任。高校と違い毎朝のSHRがないので仕事としては気軽で、留年する学生も少なかったのがよかったのですが、問題児（寮であれば、退寮！）がやはりいました。

校長が永井先生になって、福田先生のもと学生主事補を1年、この1年も「処分」の連続。平成6年12月に『三陸はるか沖地震』が発生、その後、校舎の建て替えで、色々なところが急遽、教室となって授業が行われました。そして次に佐藤義夫先生のもと寮務主事補を2年間。女子寮の学生が酷く、夜10時に緊急点呼をするなど大変でした。でも、お酒の好きな佐藤先生に付き合うのが楽しく、救いでした。平成10年、担任に復帰したもののそのクラスはC2。わがままな女子の塊で、クラスが目茶苦茶で勉強するという雰囲気のない、この世のものとは思われない状態でした。翌年から「混合クラス（Lクラス）」がスタート。永井校長が1、2年生と言ったときは先生方がびっくりでした。1年生だけだと思っていたからです。それでも、永井校長から「混合」をしっかりやってくれと言われ頑張ることになりました。1年目は1年生L2、翌年は校長が柳沢先生になって、2年生のL5、翌年L6の担任で、2年生の混合クラスは平成15年度で終わり、科ごとに戻りました。平成14年から、佐藤義夫先生と佐藤勝俊先生のもとで教務主事補を4年間。平成14年は専攻科がスタートした年でした。合わせて、JABEE認定のための資料作りや大久保先生が仕切る長い長い会議が

続きました。柳沢校長からは、「今のまま（学位なし）では、辞めてもらうから」と言われガツカリし、さらに平成16年からは、高専が独立行政法人機構になって、公務員でなくなり、貰う（予定より）給料が目減りしていきました。このとき、高専に来たことを後悔したものでした。

平成16年にJABEE審査を受審、翌年5月に認定され、一仕事が終わった感じでした。しかし、本校では、今はもうJABEEは過去のものとなっています（spiral up?）。校長が井口先生になってからは、ダンスのすきなE2、翌年L3の担任。平成22年、「系」による「基礎工学」がスタートしました。平成23年3月11日『東日本大震災』が起き、卒業式が余震の続く中、久々に第二体育館で挙行されたのでした。その4月から岡田先生が校長となり、私は「学生主事」となりました。その3年間には、ここに記述できない出来事（不祥事）がたくさん発生……。その後、Z3（3年生担当は初）、Z2の担任をして、八戸高専での教員をめでたく(?)終えることとなりました。

数学担当としては、多くの学生が「予習」など勉強してくれなかったことが心残りです。

大人の話をするれば、八戸高専には「組合」がないので校長のやりたい放題、（職員のためのことを）やらない放題で、職場としてはいかなものか微妙です。みなさんの職場はどうですか？

これからも、卒業生、みなさんの益々のご活躍を祈念しています。ありがとうございました。



No. 19 学生会誌 「凱歌」より。



## 【総合科学教育科 教授 館野安夫先生】

### ～充実した12年間でした～

平成17年度の公募により採用となり、平成18年4月に八戸に赴任しました。総合科学科教員公募の条件により、第4学年4学科の「応用物理」と「応用数学」を担当



することになりました。教師という職業はこれが初めてで、当初は講義ノートの作成に多くの時間を費やし大変な一年間でした。講義ノートの完成には更に数年を要し、その間に何十冊もの専門書に目を通すことになりました。学生時代でもこれほどの勉強をした覚えがありません。勉強することの本当の楽しさを感じたのもこの期間でした。この勉強の楽しさが何とか学生達にも伝われば良いなと思っていました。このように授業の準備には十分な時間をかけたつもりでも、時には冷や汗をかくような場面もありました。その都度、優秀でやさしい学生達に助けられたものです。打てば響くような学生を前にして身の引き締まる思いでした。多くのすばらしい学生達に出会うことができました。

八戸高専に採用となるまでの25年間は企業エンジニアとして仕事をしてきました。この企業エンジニアの経験を教育に活かすことが、私の一つの重要な使命と考えてきました。高専は直接社会に羽ばたく人材の教育を担っています。社会に出るための心構えを育むことが教育方針の大きな柱です。毎年、初めてのクラスの授業では自己紹介を行なってきました。これは、学生にキャリアプランを意識させることが目的でした。また授業の合間には、社会に出て仕事をするものの意味や心構えについて話をしたものです。時には授業よりも熱が入ってし

まうこともありました。社会に羽ばたいて行った学生達は皆、社会人としての立派な心構えを作り上げていることと思います。

八戸高専の教育理念の一つとして「連峰型教育」があります。企業エンジニアを経験した者として、各人の専門性と共に多様性も重要であることを理解しています。不慣れな分野に挑戦することは簡単なことではありませんが、その重要性を学生達に伝えてきました。また、近年の科学技術の進歩と社会の変化は著しく、学校で学んだ知識の寿命は益々短くなっていきます。学生達には、本当の勉強は学校を卒業してから始まるのだと話してきました。社会人となった学生達は、きっとその意味を理解できていると思います。

この12年間に、多くの優秀な学生達と出会ってきました。教師としての私は、このような優秀でやさしい学生達に育てられたのだと思います。私の人生の中でもとても幸せな、とても充実した12年間でした。これまでに出会った全ての学生に感謝です。教師という職業の最大の喜びは、社会人となった学生が会いに来てくれることです。多くの卒業生と再会できることを楽しみにしています。

4月からは、仙台高専で2年間の再雇用となります。八戸高専で新たに積み重ねたキャリアを、仙台高専での教育活動に活かしたいと考えています。仙台高専で新たに始まるもう一つのチャレンジが楽しみです。

学生および卒業生の皆様、保護者の皆様、また教職員の皆様、大変お世話になりました。皆様のご多幸をお祈りしております。

## 新任教員紹介

### 【総合科学教育科 教授 横田実世先生】

平成30年4月1日付で総合科学教育科に着任いたしました。科目は英語、特にサイエンス・エンジニアを対象とした学生の将来のグローバル化に対応する為のお手伝いです。着任前はアメ



リカに長年住み、中西部、南部、西海岸、そして東海岸マサチューセッツ州のボストン近郊などにおりました。専門は形質・自然人類学という理系の人類学で、大学院では法医学・骨学・人体の環境に対応する適応の相違等を学びましたが、卒業後はアメリカの産官学で様々な仕事に着きました。特に陸軍で長年主任研究員として人間工学・職業安全・温熱数理モデリング等の分野で研究に携わりました。長年のルーティンと自分に置かれた飽和状態の環境を見つめ直し、今までの経験を何か新しい形で活かさないかと思っていた時に、八戸高専で英語を未来の科学者・技術者に教える仕事を目にして、これだと思いました。私自身も現在、アメリカとは異なる青森・八戸の環境・文化の適応に切磋琢磨中です。そういう自分の姿を見せながら、学生に少しでも様々な異文化に興味を持ってもらう様工夫し、彼らの素晴らしい才能・技術を海外で開花できるよう努力して参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【産業システム工学科 機械システムデザインコース 助教 古川琢磨先生】

昨年度12月より機械システムデザインコースの助教に着任しました、古川琢磨と申します。

研究では熱流体工学を専門としております。伝熱工学を中心として医療、建築工学に関連した研究を行っています。最近では大規模環境下の自然対流伝熱に関する研究や赤外線カメラを用いた温度測定の高精度化に関して研究を行っております。

着任してから8ヶ月ほど経過し、だいぶ高専での生活に慣れてきたところです。高専では本科と専攻科生を含めて7年年を教育対象とするので、適材適所に応じた教育が求められる場であると実感しております。そのため毎日大変ではありますが、様々な学生と触れ合うことで日々刺激のある生活を送っております。

教育経験はほとんどありませんが、教職員の皆様方にご支援していただき高専での教育研究を行っております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



【産業システム工学科 環境都市・建築デザインコース 准教授 金善旭先生】

平成 30 年 1 月 1 日付で環境都市・建築デザインコースに着任いたしました、金と申します。出身は韓国ソウルで、今年で日本に来て 11 年になります。

学部を卒業した後、財団法人韓国安全診断技術院というところで 8 年間建築物の構造安全診断に関する業務に携わりました。その中で木造に関する具体的かつ工学的な資料および基準の不在に問題意識を持ち、日本の先進的な木造技術を学びたいということで日本に留学しました。修士課程では木造建築における構造性能評価に注目して研究を行い、博士過程では木造建築の構法と生産に関する研究を行いました。今は「地域性」と「適正技術」に着目して地域の建築生産システムに関する研究を行っています。

授業などの教育活動に関しては、理論だけではなく実務ではどう適用されているか、日本だけではなく海外ではどのように考えられているのかを常に念頭において学生に知識を伝えようとしております。また学生指導においては、これまでの経験を踏まえて、学生の今後の進路を考慮した指導を心がけたいと考えている。知識の伝達も重要であると考えているが、自身で成果を挙げる責任とその成果を発表という形で人に伝えることが社会でも役立つことであるため、その点に主眼をおいて指導に当たるようにしている。

着任して半年になりますが、まだまだ足りないところが多く、ご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。



【産業システム工学科 環境都市・建築デザインコース 助教 今野大輔先生】

平成 30 年 4 月 1 日付で環境都市・建築デザインコースの助教に着任いたしました、今野大輔と申します。昨年度までは、地元宮城県仙台市で東北大学大学院の博士課程に在籍しておりました。地元を離れるのは



初めての経験で、仕事面のほか生活面にも不安がありましたが、着任してからひと月半(本稿執筆時)、八戸の美味しい食べ物に囲まれながら、楽しく過ごしています。また、私自身も高専の出身で、高専という環境にまた戻ることができ、大変嬉しく思っています。

研究では、建築構造の分野を専門としており、特に強風に対する建物の安全性に関する研究をこれまで行ってまいりました。これからは、強風のみならず、地震に対する安全性や、豪雪対策のような地域性のあるテーマにも取り組みたいと考えています。

授業では、建築構造の授業のほか、建築実験や設計製図などに携わっておりますが、今のところは高専の学生の柔軟な考え方や元気の良さに圧倒されています。ですが、それに負けなように取り組まなければと日々燃えており、高専の学生がエンジニアとして元気よく巣立っていけるような環境作りに邁進していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## 平成 29 年度後半の学内ニュース

### 本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ 2017 年 第 37 回全国大会（エコラン）

平成 29 年 9 月 30 日（土）～10 月 1 日（日）にツインリンクもてぎを会場として行われた第 37 回全国大会において、八戸高専自動車工学部 BG 号が出場し、第 5 位（高専では 2 位）、同じく NP 号Ⅳが第 6 位（高専では 3 位）となった。



### 全国高等専門学校 第 28 回プログラミングコンテスト

平成 29 年 10 月 8 日（土）～9 日（日）に山口県周南市 周南市文化会館で行われた全国高専プログラミングコンテストにおいて、八戸高専の「Virtual Recreation Boccia」が課題部門で敢闘賞を受賞した。



## 平成 30 年度前半の学内ニュース

### 第 55 回東北地区高専体育大会

第 55 回東北地区高専体育大会は前年度と同様に各高専における分散開催となった。

団体戦競技では、仙台高専（名取）主管で行われた陸上競技において女子が第 1 位となった。また、一関高専主管で行われた卓球部が第 2 位、バレーボールでは男子が第 2 位となった。また、八戸高専主管で行われたバスケットボールでは女子が第 2 位となった。



陸上競技部



卓球部



バレーボール部

## 第 53 回全国高専体育大会

第 53 回全国高専体育大会は九州地区での開催となり、団体の部での全国大会出場はなかったものの、個人の部では陸上競技部からのべ 28 名、柔道部から 1 名、卓球部からのべ 4 名、テニス部から 1 名、水泳競技部から 3 名の学生が全国大会に出場した。

## 平成 30 年度後半 各種大会日程等

### アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト 2018 (高専ロボコン)

課 題：『Bottle-Flip Cafe』  
(ボトルフリップ・カフェ)  
東北大会：11 月 4 日 (日)  
鶴岡市藤島体育館  
(山形県鶴岡市、主管校 鶴岡高専)  
全国大会：11 月 25 日 (日)  
国技館 (東京・墨田区)

### 本田宗一郎杯 Honda エコマイレッジチャレンジ 2018 年 第 38 回全国大会 (エコラン)

9 月 29 日 (土) ～9 月 30 日 (日)  
9 月 29 日 (土)：練習走行  
9 月 30 日 (日)：決勝  
会場：ツインリンクもてぎ (栃木県茂木町)  
スーパースピードウェイ

### 全国高等専門学校 第 29 回プログラミングコンテスト (プロコン)

メインテーマ：「IT の未来は  
ここにあるでないで！」  
本 選：10 月 27 日 (土) ～ 28 日 (日)  
会 場：アスティとくしま (徳島県徳島市、  
主管校 阿南高専)

### 第 15 回 全国高等専門学校デザインコンペ ティション デザコン 2018 in 北海道

メインテーマ：『守破離 (シュハリ)』  
本 選：11 月 10 日 (土) ～11 日 (日)  
会 場：釧路市観光国際交流センター  
(主管校 釧路高専)

# コースからのメッセージ

## 機械システムデザインコース

**【進路状況】**平成 29 年度機械工学科を卒業した 32 名の進路は、就職 23 名、進学 9 名でした。就職者のうち県内就職者数は 5 名 (22%) でした。進学者のうち 4 名は専攻科に進み、更に 2 年間、本校において勉学に励みます。

専攻科の修了生は 8 人でした。6 名が就職、2 名が大学院 (東北大学、東京工業大学) に進学しました。尚、求人倍率は本科 34.2 倍、専攻科 96.8 倍で、求人状況は良好です。

平成 30 年度は、本科 38 名、専攻科 8 名が卒業・修了予定です。本科は 20 名が就職希望、17 名が進学希望です。専攻科は 2 名が就職希望、6 名が進学希望です。就職に関しては、地元のいいところを知ってもらおうという COC 及び COC+事業の効果が出始めているのか、県内就職を希望する学生が少し増加傾向にあります。

**【行事関係】**平成 30 年度は東北地区高専体育大会の野球とバスケット競技が本校主管で開催されました。また、ラグビー競技は仙台高専広瀬主管で 10 月 19-23 日、ロボコンは鶴岡高専主管で 11 月 4 日に開催されます。応援よろしくお願い致します。4 年生の工場見学旅行は、11 月 6 日-9 日で関東地区に出かけます。訪問先の皆様にはお世話になります。よろしくお願い致します。

**【終わりに】**学科再編により、今年度は 1-4 年生が機械システムデザインコース、5 年生のみが機械工学科の学生となりました。卒業生・修了生の皆様、お近くにお越しの際には本校へお立ち寄り頂き、ご活躍の様子をお知らせ頂ければ幸いです。

最後に、機械システムデザインコースの受験生確保のため、機械システムデザインコースの PR にご協力・ご支援賜りますようお願い申し上げます。

(機械システムデザインコース長 赤垣友治)

## 電気情報工学コース

**【進路状況】**昨年度は、本科卒業生 35 名中 17 名が就職、16 名が進学、2 名がその他の進路でした。なお、求人数は 789 社で、求人倍率は 40 倍を超えました。過去 5 年間では最も多い求人数となりました。専攻科は修了生 6 名中 3 名が就職、3 名が進学でした。本校専攻科には 8 名が入学し、専攻科からは東北大学大学院へ 2 名、北海道大学大学院へ 1 名が進学しました。

今年度の 5 年生ですが、改組前の電気情報工学科の最後の学年となります (4 年生以下は産業システム工学科です)。50 名近い大所帯で、ぎゅうぎゅう詰めの教室の中で授業を受けております。現在、就職希望が 26 名 (54%) で、売り手市場を反映してか順調に就職活動を進めております。一方、進学希望は 22 名 (46%) で、そのうち 5 名が本校専攻科に推薦合格しました。専攻科は、全員が進学希望です。

**【学生の活躍】**プロコン競技部門ですが、昨年度も決勝まで勝ち進むという活躍を見せてくれました。地元八戸で行われた NHK ロボコンですが、残念ながら全国大会へ駒を進めることはできませんでした。今年度は 11 月 4 日に鶴岡市で開催されます。応援よろしくお願いいたします。

専攻科では、各種学会等で 2 名の学生が賞を受賞しました。また、特別研究発表会では 1 名が優秀賞を受賞しました。

**【教員の移動】**今年 4 月に工藤隆男先生が本校を離れられました。細越淳一先生ですが、現在も非常勤講師としてご活躍中です。

**【最後に】**卒業生・修了生の皆様方には、多方面に渡りご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。こちらにお越しの際は是非とも母校へお立ち寄りいただき、近況をお聞かせください。皆様方のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(電気情報工学コース長 釜谷博行)

## マテリアル・バイオ工学コース

**【進路状況】** 昨年度の物質工学科卒業生は 44 名（男 15 女 29）で、就職 25 名（男 8 女 17）、進学 17 名（男 5 女 12）、その他 2 名でした。専攻科修了生は 10 名（男 6 女 4）で、就職 4 名（男 3 女 1）、進学 6 名（男 3 女 3）でした。専攻科修了生の進学先は、東北大学大学院 2 名、東京工業大学大学院 1 名、北海道大学大学院 3 名です。

今年度の本科 5 年生は 46 名（男 23 女 23）で、就職希望 22 名（男 6 女 16）、進学希望 24 名（男 17 女 7）です。専攻科 2 年生は 10 名（男 4 女 6）で就職希望 3 名（男 2 女 1）、進学希望 7 名（男 2 女 5）です。

**【見学旅行】** 昨年度の 4 年生の見学旅行は、10 月 30 日（月）～11 月 2 日（木）の期間で、関東化学(株)草加工場、昭和電工(株)川崎事業所、横浜市開港記念会館、JXTG エネルギー(株)中央技術研究所、東京工業大学大学院生命理工学研究科、大日精化工業(株)東京事業所を見学させていただきました。それぞれの訪問先では高専OBの方々にも説明に加わっていただき、学生にとって充実した見学となりました。ご協力、有難うございました。

**【主催イベント】** 中学生向けの「化学の学校」は、実施時期を夏休みに変更し、8 月 7 日（月）～8 日（火）に開催し、中学 1～3 年生約 100 名が様々な実験（11 テーマ）を行い、化学の面白さを実感してもらいました。

**【最後に】** マテリアル・バイオ工学コースは、改組後 4 年目を迎え、新しい専門科目の講義も本格的にスタートし、ますます充実した教育内容となってまいりました。今後とも、卒業生の皆様のご支援ご鞭撻をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

（マテリアル・バイオ工学コース長  
長谷川章）

## 環境都市・建築デザインコース

**【進路状況】** この 3 月の建設環境工学科卒業生は 40 名で、25 名が就職、12 名が進学、その他 3 名でした。就職の内訳は、8 名が公務員であり、東北地方整備局、八戸市、盛岡市、青森県等に勤めています。また、鉄道、電力、通信、水道、ゼネコン、マリコン等、17 名が民間企業等に就職しました。また、青森県内に就職した卒業生は 5 名でした（H26 年 3 月卒業生では 4 名、H27 年 3 名、H28 年 7 名、H29 年 7 名です）。進学者は本校専攻科へ 7 名、他大学等が 5 名であり、昨年同様、進学者が少なかったと思います。専攻科修了生 6 名は、東北大学大学院進学が 1 名、公務員採用が 2 名（東京航空局、八戸市）、民間企業採用が 3 名（JR、ゼネコン、マリコン）です。

今年度の卒業予定者は 41 名で、就職希望が 18 名、進学希望が 22 名、その他 1 名となっております。就職希望の 18 名の内、14 名が民間企業を、4 名が公務員を志望しています。今年度は、進学志望者がクラスの過半数となっており、公務員志望者が少ないという状況です。専攻科生は 3 名で、全員大学院進学希望です。学生は進学・就職に向け準備に励んでいます。

**【教員の異動】** 平成 30 年 1 月に金善旭先生（建築構法）が准教授で、4 月より今野大輔先生（建築構造）が助教で採用となっております。菅原隆先生は自主探究コーディネーター、今野恵喜先生は嘱託教授として、本校でご活躍されております。

**【最後に】** 卒業生・修了生の皆様には、いつもご支援・ご協力をいただいております。感謝申し上げます。近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りいただき、近況等お知らせください。

（環境都市・建築デザインコース長 藤原広和）

## 平成 30 年度 事務局短信

### ★ホームページ（HP）について

昨年度、同窓会のホームページ（HP）の試行を開始いたしました。これに伴い、HP上からの会費等のクレジット支払いや、住所変更等の書式ダウンロードも可能となります。なお、当面、従来の郵送による会費納入のお願い、住所調査も併用いたします。

### ★10年会費（7000円）納入のお願い

今年度は、平成10年3月卒業（MEC-31回生，Z-26回生）および平成20年3月卒業（MEC-41回生，Z-36回生）の方が10年会費納入期にあたります。HP上から会費をクレジットカードにより支払いをお願いいたします。平成30年度の第25回総会で、永年会費への移行（年齢による永年会費の低減措置あり）および会費の変額が承認されました。具体的には、同窓会HPを参照いただきたいのですが、正会員及び準会員は10年会費として10,000円を納めるものとします。但し、永年会費として一時金（～29歳で30,000円、30～39歳で25,000円、40～49歳で20,000円、50～59歳で15,000円、60歳以上で10,000円）を納めた方は、その後の会費を免除します。また、それ以外の同窓生で未納の方も会費納入をお願いいたします。

（注）封筒に添付されている宛名シールに星印がありますが、星印の数が10年会費納入までの残りの年数を示しています。従って、星印の無い方が会費を納入する必要があります。

### ★住所調査葉書

同窓会名簿データ更新のため、住所や職場の変更のあった方は同封の葉書にて同窓会宛に返送してください。また、同窓会では経費削減のため会報発行、事務連絡を電子メールで実施することを検討しています。この機会にE-mailアドレスの記入をお願いいたします。

なお、同窓会名簿で非公開としたい情報は、はがきのチェック欄にレ印を記入ください。ただし、同窓会の会員データとして情報が必要ですので住所等は必ず記載してください。

暫くの間、同窓会から郵便物が届かない方は、ホームページ（HP）から住所記載の書式をダウンロードし同窓会まで郵送により連絡してください。

### ★会員名簿（平成29年度版）の注文方法のお知らせ

会員名簿（DVD版）を平成29年12月に作成しました。平成29年度版の名簿の購入を希望される方は、HP上からクレジットカードにより代金（送料込1,500円）の支払いをお願いいたします。支払をお忘れにならないようご注意ください。



★平成 29 年度の事業報告

平成 29 年度は以下の事業を行いました。

年度	月	項 目
29	4/4	事務局打ち合わせ会議開催（メール会議）
	5/27	正副会長、事務局打ち合わせ会議開催（八戸）
	5/27	理事会、評議会開催
	9 月末	会報第 43 号 WEB 発行および住所調査実施
	11/18	理事会、学校関係者との懇談会
	3 月	名簿発行（新版）
	3/22	新入会員（第 51 期生）入会式実施（卒業式）

★同窓会からの郵便の送付先について

同窓会からの郵便の送付先を、勤務先にしたい方は住所調査葉書に記載欄を設けておりますのでご利用ください。

★クラス会活動補助金について

同窓会では、クラス会活動の活性化を目的に「クラス会活動補助金」が予算化されております。活動助成金として、10 名以上の集会に対し、年 1 回、2 万円を上限に参加者数×千円を支給します。連絡先を明記したクラス名簿およびクラス会報告（写真などを含む）が義務付けられます。

★その他

同窓会は個人情報保護法の規制団体ではありませんが、連絡いただいた情報の管理は厳格に行っております。また、住所等の情報について特別な事情がある場合には同窓会事務局まで連絡してください。